もっと「同友会大田支部」を知ろう！ 参加しよう！

OTA・NO・DOYU

おおたの同友 リニューアル8号

東京中小企業家同友会 大田支部 ◎ 広報誌

広報委員会

広報委員長　針谷周作（コトノハ株式会社）
広報委員　　島村亮（株式会社ルミナス）
発行・2016年12月27日
編集制作：コトノハ株式会社

入会のご希望は、東京中小企業家同友会大田支部 →☎03-3261-7201

みなさま、2016年はどのような年になりましたでしょうか。同友会大田支部は、支部の活動をこれまでは以上に活発化させ、社員とともに取り組んだ運動会や、社員とともに学び社風をよくするセミナーの開催などを行ってきました。今回の「おおたの同友」では、今年4月からの例会やイベントを振り返ってみます。今年も一年みなさまお疲れさまでした。いままでになく熱い大田支部にぜひご協力・ご参加くださいませ。

大田支部会員状況と報告

NEWS

◎1月12日には大田支部賀詞交歓会が開催されます。

◎各例会の登録は、大田支部のホームページでも行えます。
アドレスは、http://www.ota-doyu.comです。

◎「おおたの同友」についてご意見、ご感想がありましたら、
事務局アイダまでご連絡ください。

入退会報告

2016年度期首166名 現在172名（目標177名）

入会12名　退会6名

6月以降の新会員

6/17	金子賢司様	大和設備株式会社	推薦者:共同求人
7/1	濱園　命様	株式会社 ファイブエム	推薦者:河津文三氏
7/8	大井貴博様	株式会社 保坂商店	推薦者:斗光健一氏
9/15	新井哲雄様	株式会社 アートピース	推薦者:有倉將人氏 島村亮氏
9/15	馬場将実様	株式会社 ロッカ	推薦者:有倉將人氏
9/28	柴田　実様	株式会社ヒューマンフォワード	推薦者:赤澤大三郎氏
11/10	元木和洋様	株式会社イノベーションワーキングカンパニー	推薦者:青木豊氏

1月12日開催。大田支部新春賀詞交歓会のお知らせ

もうすぐ2017年のはじまりです。1月12日には「新春賀詞交歓会～座禅から学ぶ」が開催されます。2017年最初の大田支部新春賀詞交歓会。万障繰りあわせの上、ぜひともご参加ください。

開催日：2017年1月12日
講師：窪田慈雲老師
会場：大田区産業プラザPio（3階特別会議室）
参加費：講演のみ 2000円
講演＋懇親会 5000円
開催時間：18時30分～21時00分

2016年の大田支部新春賀詞交歓会

スケジュール　Schedule

月日	カテゴリー	カテゴリー	場所	報告者/講師	担当ブロック
12月22日	都立高専中小企業家経営塾	インターンシップ経験交流会	都立高専品川キャンパス		産業交流（都立高専）
12月22日	ブロック会		しゃぶしゃぶ温野菜池上店		リバーサイド担当
1月10日	経営指針を深め広める会		Luz大森・入新井集会室（小）		経営指針を深め広める会
1月12日	例会	大田支部賀詞交歓会	大田区産業プラザ（特別会議室）	窪田慈雲老師	正副支部長
1月13日	都立高専中小企業家経営塾	都立高専④「ハッカーの祭典デフコン6位入賞」	都立高専品川キャンパス	飛松 弦氏（㈱ディーゴ）	産業交流（都立高専）
1月17日		東京同友会大賀詞交歓会	タワーホール舟堀		
2月7日	経営指針を深め広める会		Luz大森・入新井集会室（大）		経営指針を深め広める会
2月18～19日	例会	一泊同友会	KKRホテル熱海		
2月22日		タウンミーティング	中目黒GTプラザホール		南部協議会
3月23日	例会		大田区産業プラザ（A）		経営指針を深め広める会
3月26日		第12回ゴルフコンペ			

Report

講師：戸谷益三氏（㈱志践塾 代表取締役）

社員の心に火をつけて明るく元気な社風をつくるセミナー

～伸びている会社の共通項は明るい社風～

9月から3回に渡って開催された「社員の心に火をつけて明るく元気な社風をつくるセミナー」。社風がよくなれば、社員は生き生きと仕事ができ、結果的に業績が上がる。伸びている会社の共通項は『明るい社風』を持っているということ。そのため、職場の空気を明るくし、経営理念やビジョンを共有しやすい環境をつくり、社員自身が自分の仕事を通して「人の役に立ち、世の中に必要とされ、そして感謝される」という気づきを得ることを目的として開催。今回も講師を務めたのは長年美容業界で教育本部長として活躍してきた戸谷益三氏。参加者からは「一番若い社員を参加させ会社の仕組みづくりにつながった」など、社員を参加させることで、現場に活かせる実践的なセミナーとなった。セミナーを企画した河津文三社長（株式会社ホワイトホームズ）、ありがとうございました。

Report

同友会の運動会

～アナタと会社を元気に～

10月29日、大田区立大森第五小学校にて、大田支部の運動会が開催され約80名もの参加者が社員さんとともにスポーツ競技で気持ちいい汗を流した。当日は、平賀機械工業様、青木株式会社様より賞品の差し入れを頂戴しましたほかガクヨー様には朝早くより会場周辺への案内掲示板の掲出をいただきました。今回の運動会は、社員様による実行委員会方式ということで年度初めよりご協力をいただいた井上製作所様、リサイクル・ネットワーク様、日本デジタル通信様、日本ウイントン様、㈱ミナガワ様、リノ・ハピア様お疲れさまでした。各社様のご協力の重ねてお礼申しあげます。

運動会の演出ならびに技術協力をいただきました地元大田区のプロバスケットボールチームアースフレンズ東京Z様、そして運動会を華やかにもりあげていただきましたZ-GIRLの皆様ありがとうございました。（この運動会の模様は『月刊中小企業家』12月号にも掲載されました。）

実行委員長 岡田大雅氏のコメント（㈱井上製作所、入社7年目）

様々な業種から集まって結成された運動会実行委員会はそれぞれ得意分野の能力を生かし、運動会を作り上げて行きました。その力には打ち合わせ段階から驚きでした。

本番当日、長きに亘り、思い描いてきた物が実現して行く瞬間はとても嬉しく感じました。本気で運動会を作る実行委員と本気で競技に打ち込む参加者とお子さん達により運動会は大成功に終わりました。

次回の運動会も素晴らしい物にして行きたいと思いますので、是非多くの方の参加をおまちしています。

石崎靜香さんのコメント（㈱井上製作所）

先日の運動会のお写真ありがとうございました。社内に飾らせて頂いております。また社員皆、喜んでおります。私は子供の行事があり、ミニバスケが始まる前に退散してしまったが、少しでも参加できた子供たちは、非常に楽しみ喜んでおりました。下の子は週に二日は「今度の運動会はいつ？」「まだやらないの」2年生らしい発想を言っております。次回行う事が有りましたら、ぜひ参加したいと思います。

同友会大田支部が主催するイベント情報は、同友会大田支部ホームページ http://www.ota-doyu.com にアクセス

doyukai08_layout.indd 1　2016/12/09 20:22

今年の大田支部例会は熱かった！

2016年度例会ダイジェスト

2016 年もあと残すところわずかとなりました。みなさま、この 1 年間はいかがお過ごしでしたでしょうか？
今年の大田支部は、いつになく熱かった！そこで、今年の夏に開催された例会を 3 つダイジェストでお届けいたします。
参加できなかった方も、ぜひこの機会にご確認いただければと思います。

ある日突然 40億円の借金を背負う、それでも人生なんとかなる

報告者：湯澤 剛氏
株式会社湯佐和 代表取締役社長

会社員として働いていた湯澤さんが36歳の時に創業者の父が亡くなった。父の会社は、海鮮居酒屋のチェーン。当初は会社を継ぐ気がなかった湯澤さんだが、いざ父の会社の残務処理をはじめると借金が40億あることが判明。銀行からは借金返済に100年はかかりますと言われ、途方に暮れる。しかし、ここで自分が抜けてしまったら会社はダメになると社長就任を決めた。

1ケ月3000万円の返済をしていくのはきつかった。ダンボール箱いっぱいに督促状の山。それまで普通のサラリーマンだったからなおさらだ。33店舗の店を展開していたが、そこを仕切るのは2人の店長のみ。これで本当に会社がまわるのかと驚いた。

社内を改革しようにも、勤務中にタバコを吸っている社員を見つけ叱ると「じゃあ辞めます」と去っていく。居酒屋は日々の営業があってお金が入ってくる。営業ができなければお金は入らない。だから、そうした社員を見つけても見て見ぬ振り。

ある時パートさんから、社員が横領をしているという報告を受けた。該当する3人の社員に証拠を突きつけたが、誰も認めず、しかも3人揃って辞めると言う。辞められては困ると、「私が悪かった」と謝ると、告発したパートさんが辞めていった。

その頃、家にも借金の督促の電話がかかってくるようになり精神的に追い詰められた。

そこで不安や恐怖を紙に書き出した。書き出すと不思議と落ち着いた。さらに期限を決めその期間にできなかったらスパッと辞めると決意した。5年が経っても経営はうまくいかなかった。その当時はM&Aが盛んだった時代。幹部社員を5～6名集め、会社を辞めると話したところ、社員たちは本気で怒ってきた。「自分の人生をこの会社に掛けているんです」。湯澤さんにとっては40億の借金がある会社。しかし社員にとっては大切な会社であると気づかされ、利益追求第一から、社員第一にしよう。と、そこから湯澤さんの会社は変わってきた。現在借金は1億5000万円。「いまでも問題だらけだが、私の16年間の経験から言えるのは、「信念、あきらめなければ道は必ず拓ける」ということです。信念をもってこれからも取り組んでまいります」（湯澤社長）。

「経営者の強い思いが企業文化をつくる」

報告者：石川英嗣氏
株式会社メイショウエステート　代表取締役社長

25歳で会社を始めた当初の目標は、地域ナンバーワンでした。管理戸数1000戸。10年後にその目標を達成し、次に、経営理念「信用・信頼で地域ナンバーワン。自己資本比率50%を目指す」を掲げ、20年たったら無借金経営で自己資本比率50%を達成しました。思い続けたら叶うということを実体験しました。3つ目の目標は、「社員の自己実現」です。全社員の自己実現、仕事を通じて人間性を向上して社会に役立つことを目指しています。

20歳の時、父が経営する印刷会社はつぶれ、会社の土地を処分する不動産屋さんがすごくかっこよく見えた。それで不動産の仕事をしようと思った。転職情報誌を買ってきて、羽振りのよさそうな会社をみつけて入社した。華やかなイメージだったが、実際は13時間ずっと電話営業で投資の不動産を売る会社。肉体的には大丈夫だが電話しても断られつづけることの辛さ。しかし、70名の社員のなかで売れている人が必ずいる。違いはなにかと考えるようになった。トークや提案資料を見せてもらって勉強すると面白くなってきた。アポがとれると上司が同行してくれて上司のトークも聞けた、お客様からも感謝されることが多くなった。その会社に5年間務めました。

25歳で会社を始めた。きっかけは、母が勤めていた会社が不動産部を廃業するということで（母が一人で担当していた）、昔からよく知っている会社だった。お預かりしている物件は70戸、毎月30万円くらいの売り上げはあった。25歳だったのでまだ会社を作るのは早いかな、不動産知識も中途半端だと思ったが、やってみたかった。

最初の7年間は底辺をはいつきまわってきた。このままでは終われないといつも思っていた。レオパレスがマンスリーマンションをはじめた。シティハウジングさんもマンスリーマンションをはじめたので、当社もマンスリーマンションをやろうと、賃貸住宅フェアでマンスリのFCを募集しているところに真っ先にいってお願いした。シティハウジングさんにも挨拶に行ったら紹介されたのが同友会でした。平成12年にマンスリーを始めると同時に入会しました。

今後の取り組みとしては、賃貸管理から資産コンサルまで世代を超えて不動産を活かせる会社にしていくことです。大田区は空港もあり大変めぐまれている。地方・諸外国からご縁のある方に第二の故郷を与えられる不動産会社、粗利の1%を地域の子育て支援にしたいとのグランドデザインを描いています。

「四方よしの経営で世界のリーディングカンパニーへ」

報告者：渡邊智恵子氏
株式会社アバンティ 代表取締役社長

アバンティは1985年9月4日に創立され、今年で31年目を迎えます。基本理念は「敬天愛人」、経営理念は、「オーガニック製品を通して地球環境の保全と社会貢献をする」。行動指針は「社会倫理に照らし、人として正しいと思うことを実践する。関わるすべての人々が利益を分かち合う、四方良しの精神を実践する」。「四方よし」という言葉は我が社の造語で、「売り手、買い手、世間」の三方良しの精神に「作り手良し」を加えました。

わが社では、「遺伝子組み換えでない種で作り、化学薬剤を使用しない、児童労働をさせない、労働者の人権を守る」環境に配慮した良質の「オーガニックコットン」を作っています。通常の綿は大量の化学薬剤を使用しており、遺伝子組み換え種は様々な危険性を抱えていますので、我が社で使用する綿は、主にテキサスやインドの農家に直接栽培を依頼しています。インドでは40万人の子供たちが学校に行かずに綿栽培に従事していますが、我が社の使う綿は、児童労働を認めず、また綿を生産する村の子供たちの成長をサポートし、職業訓練や通学を支援する運動を行っています。

そして、大切なソーシャル事業の1つに、東日本大震災で仕事を無くした東北のお母さんたちに働く喜びと希望を取り戻してもらう仕事づくりプロジェクト「東北グランマの仕事づくり」があります。9箇所で100名のお母さんたちが仕事をしており、その美しい仕事はNHKの番組などでも取り上げていただきました。

今年から小諸に本社を移転し、「小諸エコビレッジ」を立ち上げ、販売だけでなくコンサートやワークショップができる拠点にします。マルシェを開催し、地域の人たちとの交流を深めています。そして私は、これが最後の仕事になるであろう、森を荒らす鹿の肉を有効利用するペットフードづくりを始め、収益は森を守る人の人材育成のために使うプロジェクト・一般財団法人「森から海へ」を立ち上げました。

私が次から次へと新しい仕事ができるのは、社員が一所懸命やってくれるからです。我が社は、みんなの会社にしていこうと思います。現在は私が100%株主ですが、15年かけて持株会に譲渡していく取り組みをしています。

私はみんなに、正しい情報を得てほしい。みんなが賢くなり、正しい情報を得て正しい行動をとることを心がけてほしいと思います。